

寸言

一般財団法人
日本航空機エンジン協会
専務理事
森永 実



民間航空機エンジン国際共同事業への貢献

日本航空機エンジン協会は、1981年に日英国際共同開発プロジェクト（XJBプロジェクト）の日本側推進主体として設立、以降現在に至るまで欧米航空機エンジンメーカーであるP&W、GE、RR社等と国際共同開発及び量産事業等に係る日本の取り纏めとしてIHI、KHI、MHI（3社）とともに、経済産業省、航空機国際共同開発促進基金及び関係社ご支援のもと、本邦民間航空機エンジン事業を牽引してまいりました。

コロナ禍で大幅に落ち込んだ民間航空機エンジン事業は、既に2019年水準を大幅に超えるまで回復、当協会売上高も5千億円に達しようとしています。

しかしながら、コロナ禍以降に生じたSupply Chain問題、物価上昇、ロシアによるウクライナ侵攻とガザ紛争、そして昨今の米国関税問題等、多くの課題に向かい合う日々です。

航空機エンジンの製造・整備はWorld Wide Networkに支えられており、OEMとともにそのNetworkを担う本邦航空エンジン業界は、その製造・整備能力拡充とSupply Chain強靱化が今後ますます重要になります。

将来を見るに、更なる省燃費・Carbon Neutralに向けた次世代・将来航空機向けエンジン技術開発が必須です。

当協会は、次世代狭胴機用エンジンとして次世代GTF先行技術開発を、そして2024年3月の経済産業省産業構造審議会を経て進む将来

狭胴機用エンジンの要素開発・実証に対し、3社とともにIntegratorとして取り組んで参ります。

民間航空機エンジンは10年単位で取り組む必要がある息の長いビジネスです。

V2500エンジンは、1983年にProgram Launch、1988年から量産開始、今や収益の柱に成長し今後10年以上に渡り日本航空エンジン業界に大きな利益をもたらします。

V2500後継エンジンであるPW1100G-JMエンジンも、20年に渡る要素技術開発を経て大幅な低燃費・低騒音を実現しました。

航空機用エンジンは優れた実績と技術力を有するPlayerしか行えず、日本航空エンジン業界もその限られた一員です。

高い安全性と高度な品質・耐久性等が要求されるのはもちろん、地球環境問題や経済課題等、航空機エンジンへの性能要求は益々高度化していきます。

当協会は、先人のLegacyを礎に、既存Programを健全に運営し、10年後、20年後を見据え将来の国際共同事業に欠かせない存在として我が国航空機エンジン産業の地位向上に向け一層尽力してまいります。

関係機関、関係業界をはじめとする皆様の益々のご支援をお願い申し上げます。